お茶の町宇治の近代化遺産

史跡宇治川太閤堤跡　明治期煉瓦（レンガ）工場跡の発掘調査概要

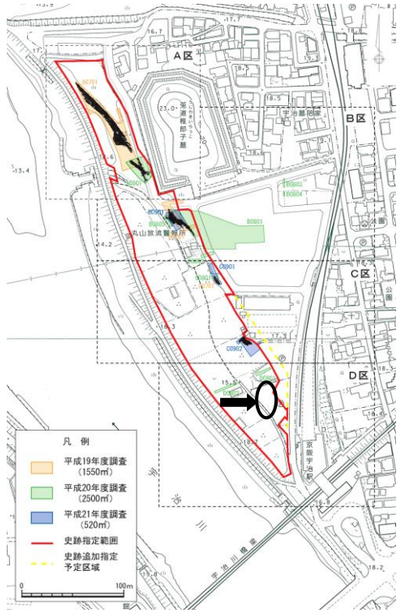
（現地説明会資料）2013.09.28

調査場所	宇治市宇治乙方 101－1	名　称	史跡宇治川太閤堤跡
調査担当	宇治市都市整備部歴史まちづくり推進課　℡（0774）21－1602		
発掘理由	史跡整備にあたって煉瓦窯の範囲・内容を確認するため（国庫補助）		
調査期間	平成 25 年 8 月 19 日～平成 25 年 10 月 25 日（予定）		
調査面積	105 ㎡	掘削深度	1.2m
検出遺構	煉瓦窯１基・煉瓦廃棄場２か所 煉瓦積みカマド１基	出土遺物	煉瓦・瓦・陶磁器 鉄製火格子・蹄鉄　など

１．発掘調査に至る経緯

平成 19 年の発掘調査で発見された豊臣秀吉築造の宇治川太閤堤跡は、当時の技術の粋を集めた大規模治水工事の様子を今に伝えるものとして、平成 21 年に国の史跡に指定されました。宇治市ではこの貴重な文化財を顕彰し未来に伝えるため、(仮称)宇治川太閤堤跡歴史公園の整備を進めることとしています。

この史跡宇治川太閤堤跡地内は、宇治川に面した好所のため各時代の遺跡が重複しています。古くは旧石器時代、弥生時代、古墳時代などの遺物や集落跡や古墳など、新しくは江戸時代の瓦窯跡そして明治期の煉瓦窯跡が確認されています。今回の発掘調査は、平成 23 年の試掘で発見された明治期の２基の煉瓦窯跡の範囲を確認するため、その南側で実施したものです。この煉瓦窯跡は明治４２年の地図に工場マークとして記載されているもので、お茶の町宇治の近代化を担った施設の一つといえます。



発掘調査地の位置

２．発掘調査の成果

今回の調査は、調査地北半に「T」字の形の１トレンチ（北側を１区とし、南北幅３m、東西長 14m、南側を２区とし長 10m）を設定し、南半には南北幅３m、東西長７mの２トレンチを設定しました。１トレンチでは、現地表面から 1.4m程掘り下げたところで煉瓦窯１基と煉瓦廃棄場が見つかり、２トレンチでは地下 1.2m 程で煉瓦積みカマド１基がみつかりました。

１トレンチ１区煉瓦廃棄場跡　１トレンチの北壁沿いで東西８m、南北 1mを確認しました。煉瓦を数段に積んだ壁の内側に廃棄煉瓦が詰まっており調査区の外に続きます。壁に使われている煉瓦には、窯本体に使われていた高熱で表面が溶けているものもあります。

１トレンチ２区煉瓦窯跡　南北長５m・東西幅 2.5mで煉瓦窯底面の一部を検出しました。上部の焼成室や焚口は失われており、焼成室の地下に南北にのびる３条の煙道が残っていました。調査区西壁沿いには窯壁体痕跡の煉瓦圧痕を留める漆喰モルタルが確認できるため、この部分が窯の西端で窯は東側の調査区外にもう少し伸びていると判断できます。窯の南側には煉瓦片が廃棄してあり、さらに南には燃料となる粉炭滓が堆積していました。粉炭は窯の天井から投入する燃料で、窯の天井には投炭孔があったと考えられます。この煉瓦窯は煉瓦廃棄場を埋めた後につくられています。

今回の調査で検出した煉瓦窯１基と平成２３年の調査の２基を含めて考えると、この煉瓦工場では単独の煉瓦窯を北側から南へと順に構築と廃棄を繰り返して移していることがわかります。今回の発見した煉瓦窯はその最終操業のものと考えられます。

２トレンチ煉瓦積みカマド　南北長３m、東西幅 1.5mを検出しました。中央の焚口から南側のカマド据え付け部に熱風を送ります。工場の炊飯用のものでしょうか。

３．出土遺物

煉瓦は、長さ 21 ㎝、幅 10 ㎝、厚さ６㎝前後のものが大半を占めます。粘土を型に詰める手抜成形で、歪みなど若干のばらつきがあります。「－－」の刻印のある煉瓦と「×」の刻み目のある煉瓦、描き目のある煉瓦をそれぞれ１点確認しました。窯体に使われたと思われる、表面が熱によって溶けた煉瓦も出土しました。また煉瓦廃棄場から出土した長さ 65 ㎝の鉄板は、西洋式の窯の焚口に取り付けられる鉄製火格子（ロストル）と考えられます。２トレンチの煉瓦積みカマドの近くからは、馬の蹄鉄が出土しました。煉瓦や燃料・材料を運んだ荷馬車のものと思われます。

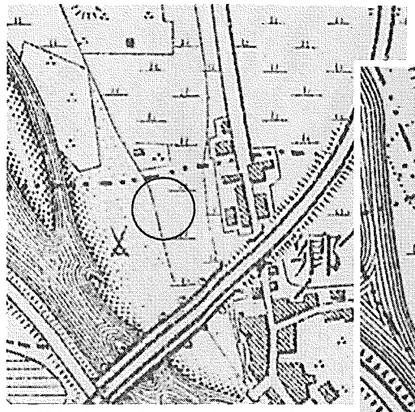
４．まとめ

煉瓦は幕末から大正にかけての約 100 年間、わが国の近代化の象徴として、都市建造物や鉄道、工場、そして民家の基礎や塀など、さまざまなところで用いられました。宇治では、鉄道や軍施設、大正２年操業の宇治川電気株式会社宇治発電所などに用いられたほか、大正 13 年に茶葉を乾燥させるための煉瓦造りの炉が発明されるなど、お茶の町ならではの使い方もされました。

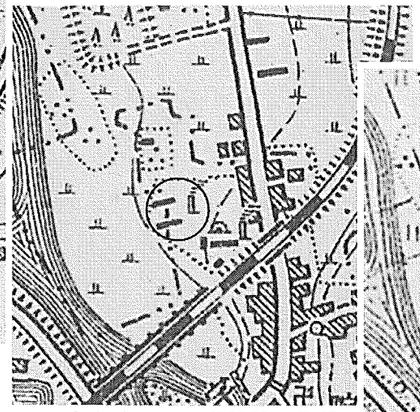
煉瓦製造には、大量生産用のホフマン窯を用いた大会社が活躍し各地に煉瓦を供給した以外にも、大規模工事などに際しては近隣に煉瓦工場が営まれ、地域の近代化を担いました。今回発掘の煉瓦工場もこのような一例です。今後、ここで生産された煉瓦の供給先や生産技術の復元などの調査を進めていきたいと思います。

大正期の宇治水力発電所

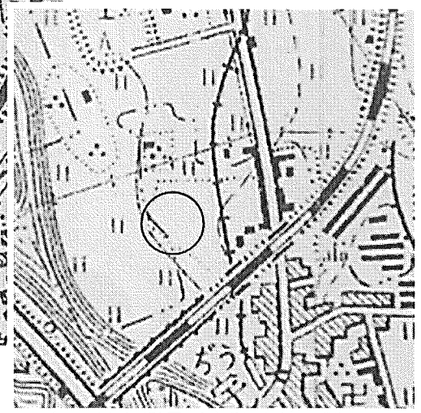
調査地．付近の土地利用変遷



▲明治 30 年測量 1/20000 地形図



▲明治 42 年測量 1/20000 地形図

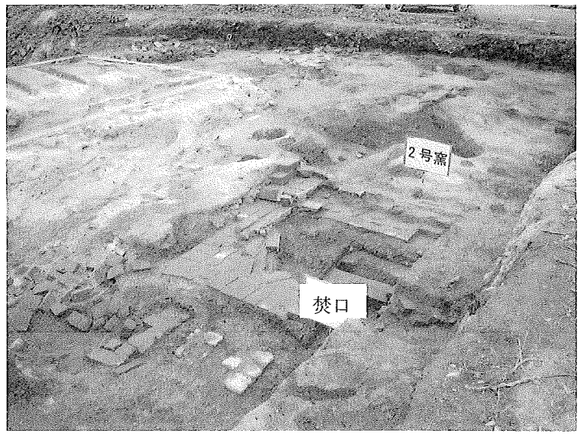


▲大正 11 年測量 1/25000 地形図

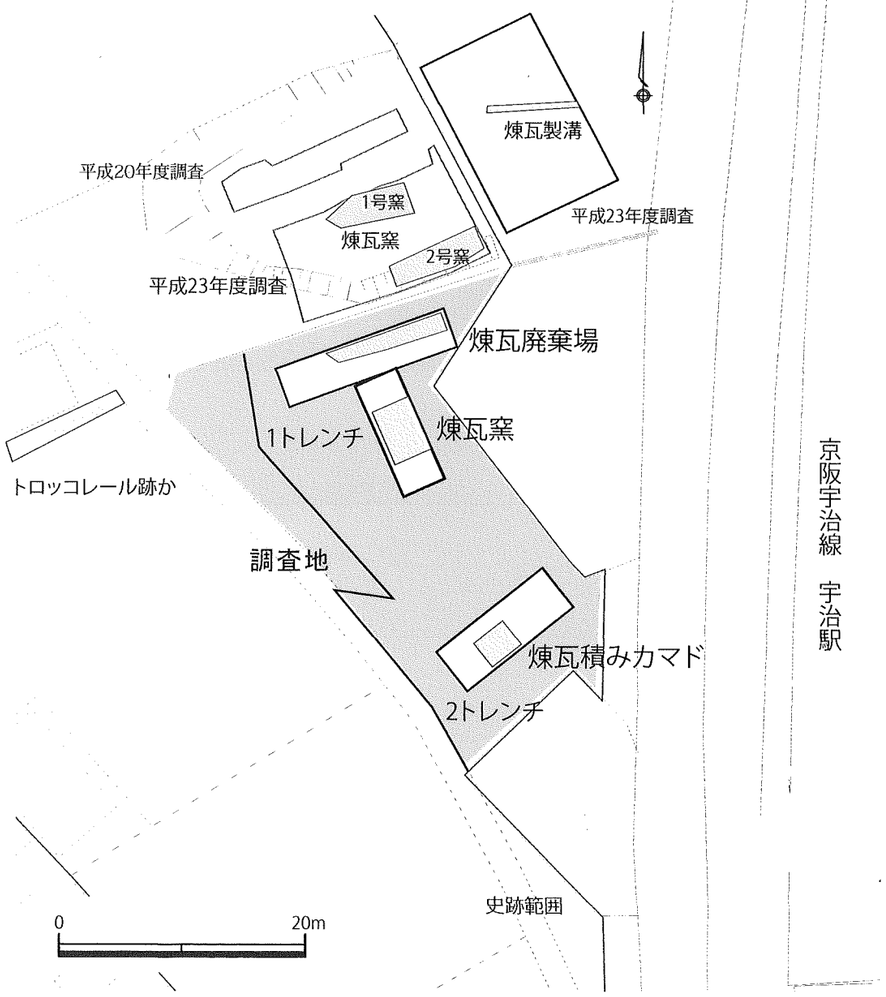
ㅍ 水田　煙突

地図の変遷　（地図中「○」が調査地　）

平成 23 年度調査　1 号窯

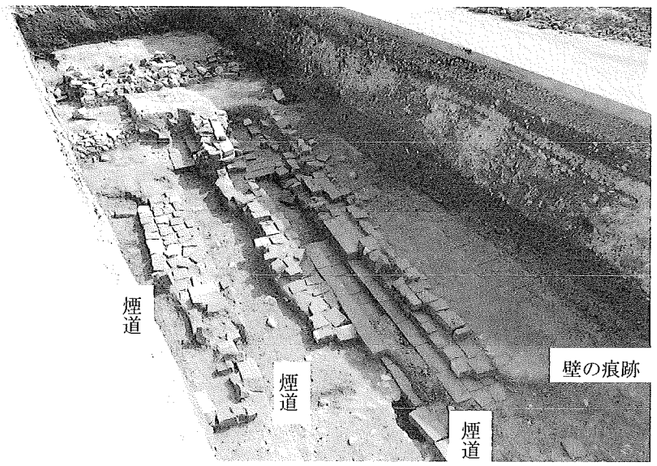


平成 23 年度調査　2 号窯

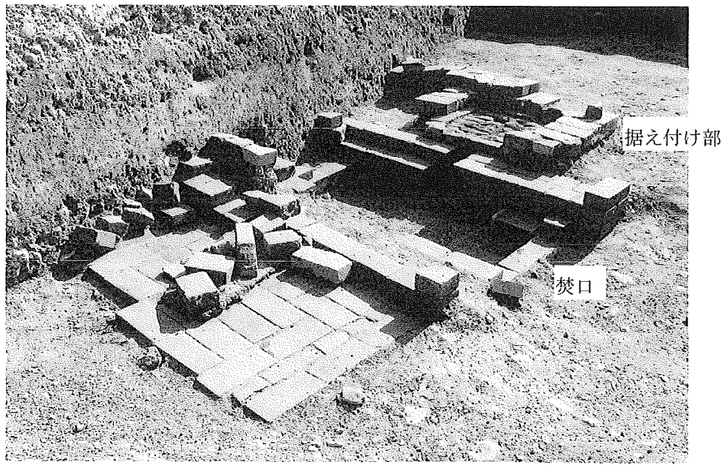


煉瓦工場跡 関連遺構配置図

煉瓦廃棄場　煉瓦積みの壁体の内側に大量の煉瓦が廃棄される。



煉瓦窯　焼成室や焚口は失われ、焼成室下部の煙道部分が残る。



煉瓦積みカマド　中央が焚口になり奥の据え付け部に排熱する。